

学校だより

令和2年度 第13号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年3月24日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## コロナ禍で“特別な”1年間 ありがとうございました

校長 藤田 忠久

1月末の「なかよし活動」の『引継ぎ式』を皮切りに、2～3月には「学校のリーダー」としての心意気（自覚や責任）、活動の意義を踏まえた態度や行動様式など、6年生から5年生への「伝統継承」がなされていきました。同様に、5年生から4年生、4年生から3年生、3年生から2年生、2年生から1年生にも新年度に進級した後の「目指す姿」が、『授業交流』（先輩から学ぶ授業参観）などで示されました。

こうして迎えた3月5日（金）『6年生ありがとうの会』は、最高学年のリーダーシップを発揮した5年生の企画・運営により、1～5年生が順に学年（集団）としての「感謝」と「決意」を表していきました。

10日（水）、11日（木）の『なかよしありがとうの会』では、今年度の縦割り班を解散するとともに、在校生から6年生に、個人として（一人一人）の「感謝」と「決意」のメッセージが渡されました。19日（金）には『6年生からのお礼の会』として、6年生が作成したビデオ動画「各学年へのメッセージと歌のプレゼント」がテレビ放送で流され、どの子も食い入るように画面を見つめていました。続いて5年生への『引継ぎ式』で、6年生が大切にしたい「ふるさと大好き」「力を尽くす掃除」「場に応じたあいさつ」の三つを5年生代表に手渡し、受け取った5年生が「私たちが引き継ぎます！」と力強く宣誓しました。最後に6年生からの呼びかけにより、全校で「校歌」を歌いました。全校児童が廊下に出て広がり、6年生は在校生に「託す思い」を込め、在校生は6年生と力を合わせて行う最後の活動という気概をもって、心のこもった「校歌」をみんなで歌うことができました。

実は、本日（3/24）3時間目に『6年生への校長講話』として、キャリア教育の側面から「教職の魅力」を話した後、「これからの社会を生き抜く力」についての話をしました。子供達が成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい“挑戦の時代”を迎えていると予想されます。そのため、子供達には「社会の急激な変化を乗り越え、未来を切り開いていく力」、言い換えれば「自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくための資質や能力」が求められることとなります。AIの時代を生き抜くために必要なこうした力を、自分なりの解釈として「あ・い・う・え・お」で始まるキーワードを使って、以下のようにつえています。

実は、本日（3/24）3時間目に『6年生への校長講話』として、キャリア教育の側面から「教職の魅力」を話した後、「これからの社会を生き抜く力」についての話をしました。子供達が成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい“挑戦の時代”を迎えていると予想されます。そのため、子供達には「社会の急激な変化を乗り越え、未来を切り開いていく力」、言い換えれば「自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくための資質や能力」が求められることとなります。AIの時代を生き抜くために必要なこうした力を、自分なりの解釈として「あ・い・う・え・お」で始まるキーワードを使って、以下のようにつえています。

あ ん（案）… **新しいアイデア** を生み出す発想力や構想力

イ ン（in）… **input（入力）** 必要な知識や情報を入手・収集する思考・判断の力

う ん（運）… **運を開く output（出力）** 情報発信に必要な未来を切り拓く表現力

え ん（縁）… **縁を大事にする** 人的ネットワークを構築するためのコミュニケーション力

お ん（恩）… **恩義に感じる**（感謝の心を忘れない）誠実さ等の人間性

岐阜小学校には、「素直な子」がとても多いと感じています。この“素直さ”は、うまく育てていかなければなりません。単なる「従順な子」にしてしまえば、上記のような力は十分に育ちません。いろいろなことを学んで“素直に”吸収しながらも、適切な選択・判断ができる思考力を育てていくことが重要です。そして、誰も思いつかないようなアイデアを出したり、進んで自己アピールしたりすることができる雰囲気や環境が必要です。そこには、私たち大人の評価観が大きく影響します。枠に埋めたりルールに乗せたりすると、育児や指導はしやすくなるかもしれませんが、しかし、大人の考える範囲内でしか動けない子になってしまいます。子供達の思いつきや思わぬ行動が、大きな価値に繋がる可能性があることを、忘れないようにしたいものです。子供達の可能性を引き出し、それを伸ばす指導を目指していきたいと思えます。

最後になりましたが、コロナ禍で“特別な”令和2年度の1年間、本当にありがとうございました。4月からの新年度も、どうぞよろしく願いいたします。

学校だより

令和2年度 第12号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年2月26日

岐阜市大工町1番地

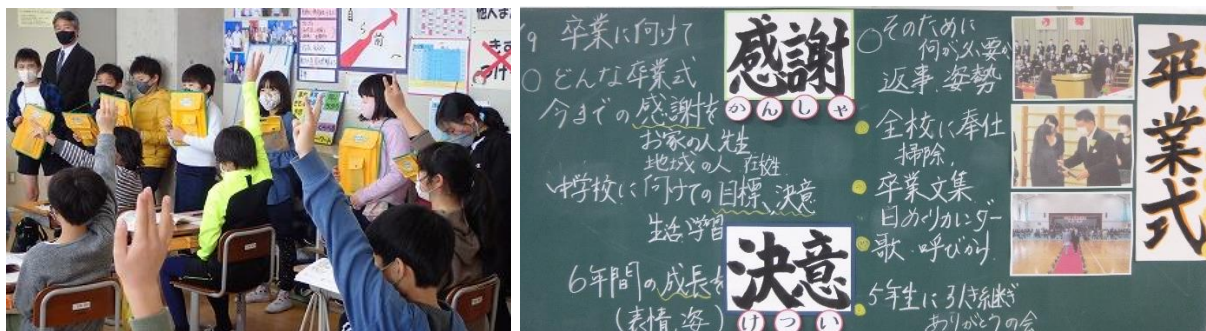
TEL 058-265-6388

## 次年度に向けた取組も佳境に！

校長 藤田 忠久

コロナ禍で“特別な”令和2年度も、残すところ3月だけとなりました。昨年度は、突然の「臨時休業」措置によって、重要な「3月の学校生活」が奪われてしまいました。昨年度の学校便り「ふるさと大好き」最終号の見出しには、「不本意な最終月」という言葉を使わせていただきました。そういう意味では「緊急事態宣言」解除の見通しが立ち、年間のまとめと新年度準備の「3月の学校生活」ができることは、とても有り難く、その1日1日、1分1秒を「本当に大切にしていかなければならない」と痛感しています。

既に1月～2月にかけて、異学年縦割り活動「なかよし遊び」や児童会（委員会）活動では『伝統継承』を意識した「引継ぎ」が行われています。その他、下学年が上学年の「授業参観」を通して、自分たちよりも一段階「質の高い学び方」に憧れをもって研修する「異学年交流」も始まるなど、4月の進級に向けて目指す姿を確かめたり、一人一人が心構えをもったりする取組も動き出しています。



6年生は、小学校生活最大で最高の儀式的行事である「卒業証書授与式」の準備・練習をはじめ、奉仕作業を中心とした「愛校活動」や「卒業文集」づくりなどの『卒業プロジェクト』を進めています。その様子からは、6年間お世話になった学校への「感謝」と巣立ち行く最高学年としての強い「決意」を感じます。この6年生に「安心」して卒業してもらえるように「感謝」を伝えるための「6年生ありがとうの会」への準備も、佳境に入ってきています。例年と同様にはできないのですが、それぞれの学年で「何ができるか」「どうしたらできるか」を模索しながら、学校中で「前向きに 直向きに」頑張っているところです。

前日までの取組や当日の様子は、学校ホームページや「PTAがつくる岐阜小学校のページ」サイトでも、随時お伝えしていきたいと思っておりますので、是非ご閲覧ください。

また、2月上旬にお願いした「保護者アンケート」の集計結果を、この学校便り「ふるさと大好き」12号の2～3枚目に綴じさせていただきました。このアンケートは、初めてスマートフォンや携帯電話、タブレット端末、パソコン等の情報機器を用いて実施した「学校評価」でした。昨年度までは、多くの方が記名され、手書きで記入されたものを各学級担任に提出していただいていたのですが、全員が無記名になり筆跡も分からない回答形式になったことと、コロナ禍の影響で例年通りの教育活動が十分にできなかったことから「よい結果はあまり期待できないかもしれない」と覚悟をしていました。ところが、前年度と比較しても有意差はほとんどなく、ほとんどの項目で嬉しい評価をしていただけました。特に、感染予防を含めて今年度のキーワードの一つに掲げた「安心（・安全）」に関する項目と「児童の活動や行事への頑張り」では、大変高い点数を付けていただきました。来年度に向け、お寄せいただいた少数意見も大切にしながら、よりいっそう「適切に」「分かりやすく」を意識し、学校経営や教育活動を進めていきたいと思っております。

アンケートへのご協力をいただき、誠にありがとうございました。

学校だより

令和2年度 第11号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年1月29日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## 「ふるさと大好き」岐阜小学校の取組

校長 藤田 忠久

1月のはじめ、冬休み前に届いていた『ふれあいメッセージ』を児童の目に触れる場に設置しました。これは、学校運営協議会で「地域行事部」からの提案に賛同してお寄せいただいたカードを、部会の方で掲示物として準備してくださったものです。地域や保護者の皆様からの「今年はなかなか会えないけれど、心はそばにあるよ。一緒に乗り越えようね。」など、多くの励ましの言葉を読んで、子供たちは勇気や元気をもらいました。

部会のお一人が、居合わせた顔見知りの6年生に「お礼を書くように呼びかけたらどう？」と声をかけてくださり、昼の放送で「『ふれあいメッセージ』への返事を書きましょう」というお知らせが始まりました。やがて、昼の放送は「素敵なお礼を紹介します」へと変わっていきました。そして、今週新たに「地域のみなさんありがとう」という掲示板が設置されました。2月からは金華公民館と京町公民館で地域の方々にも順に見ていただく予定です。実は、声をかけてもらった6年生の女子3人は自分の時間を割いて「お礼の呼びかけをしてもよいですか?」「低・中・高別にお礼の見本を作ってみました」「放送原稿を書いたので見てください」と校長室に相談や報告に来たり準備を進めたりしてくれました。「ふれあいメッセージ」は主体的なボランティア活動を創り出し、自身の成長へと繋げるとともに、みんなの心を一つにしてくれました。3人の中の一人は「たくさんのメッセージをありがとうございました。このメッセージの一つ一つを、これからも大切にしていきたいです。(皆さんも)コロナに気をつけてください。」というお礼を書いていた。1~3月(後期後半)の「キーワード」として掲げた「感謝」と「決意」が組み込まれ、そこに「思いやり」も加わる「心のこもった一言」だと感心しました。

リモートやSNS等のデジタル全盛の中、直筆のメッセージ交流というのは、如何にもアナログな感じがしないでもないのですが、本来はスキンシップを含めた対面の「ふれあい」を大事にしてきた岐阜小コミュニティ・スクール(CS)らしい「心の交流」になったと思っています。本当にありがとうございました。

一方、1月には5年生が社会科学習を公開(提供)してくれ、岐阜小学校の教員みんなで研修を深めることもできました。昨年度の「社会科全国大会」で開発した教材「情報を生かす観光業」を岐阜小学校の財産へとするために、新たに「カリキュラム・マネジメント」を研究の視点に加え、総合的な学習の時間や他教科との関連も考えて行った授業でした。子供たちは大変前向きに学習に向かい、「岐阜まち」に対する深い理解と愛情が感じられる素晴らしい発言や、質の高いノートまとめ(記述)を見せてくれました。また、「十八楼」の女将さんをコミュニティ・ティーチャーにお招きし、全員が意欲的に追究したことを確かめ、さらに「自分のこと」として考える学びとなりました。岐阜小学校は、開校当初からCSの指定を受け、「ふるさと大好き」を掲げた教育活動を地域と共に進めています。これを土台とした社会科の研究によって



「単元で付けたい力を明確にした授業」「問いの精選」「子どもたち学びの定着」に関わって、一定の成果を上げることができました。子供たちが「ふるさと大好き」を実感しながら、地域から学び、地域に関心をもち、地域社会に関わる力へ広げていくことが、よりよい社会の実現のために、様々な出来事(社会的事象を)「自分のこと」として考える児童につながるものと考えています。



学校だより

令和2年度 第10号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和2年12月25日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## 「禍を転じて福と為す」を願って…

校長 藤田 忠久

2（前・後）期制の岐阜小学校では、今日が「冬休み前の最終日」であり、今日で「後期前半の終了」となります。学校の教育課程上は少し中途半端な位置付けですが、2020年（令和2年）の最終授業日となるので、大きな節目の日と言えます。特に令和2年度は、夏休みの短縮・秋休みの廃止・土曜授業日等の増設によって、授業日が4ヶ月以上も続く“特別な”教育課程となりました。それでも岐阜小学校の子供たちは、全力で駆け抜けてくることができたと思っています。明日からの冬休みも短縮され、わずか9日間の休業期間となります。どうか、この年末年始は休養を優先していただき、家族でゆっくりお過ごしいただきたいと思います。そして、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザへの感染防止対策の徹底をしながら、健康管理に努めていただきたいと思います（右図参照）。

さて、間もなく2020年（令和2年）が終わります。年末の風物詩「今年の漢字」には『密』が選ばれました。私自身は、2位になった『禍』（意味…よろこばしくない事柄。不幸をひきおこす原因。災難。）の方が、この1年を如実に言い表している気がしています。学校現場にとっても、本当に大変な1年となってしまいました。3～5月の3ヶ月にも及ぶ長期休業期間があり、昨年度の卒業式も今年度の入学式も“特別な”形で行うこととなりました。日常の学校生活にも、CS先進校としての教育活動にも、大きな制約が生じた1年となりました。それでも、本校は創意工夫によって多くの教育活動を生み出し、大きな成果を上げることができたと思っています。これまで、主に行事的な内容の紹介が多かったと思うのですが、常時活動の中でも目を見張る頑張りがたくさんありました。児童会活動では、どうしても代表委員の活躍が目立ちますが、他の委員会もいろいろなアイデアを出し合い、情報発信や投げかけをしてくれています。例年通りの当番活動ができなくなって、最も苦労したのは給食委員会だと思いますが、お昼の「給食一口話」を請け負うようになり、担当となった子が「マイ原稿」を考え、素晴らしい放送へと高めていってくれました。その一例として、12月8日の担当として話した6年生女子の放送原稿（オリジナル部分）を紹介します。

今日の献立に「飛騨牛のすき焼き」があります。私は、11月29日の「イイニクの日」に生まれたのですが、お肉はあまり好きではありませんでした。しかし、10月29日の高山研修に行ったときに食べた飛騨牛がとっても美味しく、それからお肉が大好きになりました。今日は、その飛騨牛を使ったすき焼きです。皆さんの中にもお肉が嫌いな人がいるかもしれませんが、今日の献立はそれを克服するチャンスだと思います。また、他にも好き嫌いがある人もいますが、「嫌いだから食べない」ではなく「美味しい」と思って食べると、もしかしたら好きになるかもしれません。どんなものでも、味わって食べるようにしていきましょう。

このように、「コロナ禍だからこそ全校のためになる新しい活動を考えます」という委員会での決意を実行に移す子供たちの動きをはじめ、「未曾有のこんな機会を、学びや成長へと繋げないことは勿体ないし駄目なこと」「この期間にしか、感じられないこと・考えられないこと・味わえないことがきっとあるはず」「新たな挑戦を一步前へと進めたい」と考えた実践により、制約の多いwithコロナの『新しい生活様式』の中でも『成長』を実感することができています。しかし、このコロナ禍を乗り越えたafterコロナのときにこそ、もっと大きな『成長』へと繋げられるのだと思っています。「禍を転じて福を為す」の、「身にふりかかった災難を上手く活用して役立つものとして利用する」はできてきました。次は、「厄介ごとが一転して幸福の種に転じる」2021年となることを、信じて待ちたいと思います。

年末年始は第3波の本格的な到来に  
**最大限警戒を！**  
感染防止対策を徹底しよう！

市民の皆様へ

- 家庭にウイルスを持ち込まないための、基本の徹底！  
⇒「人の距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い」、「3密回避」
- 毎日の体調自己チェック！体調不良の時は、“外出しない”
- 飲食を介した感染に要注意！  
⇒「大人数や長時間におよぶ飲食」、「飲酒を伴う懇親会等」に注意  
「マスクなしでの会話」は避ける

人が集まる季節の行事は、特に感染防止対策をして楽しみましょう！

クリスマス、大晦日、初日の出、初詣、年始の親戚との集まり、成人式など

- 新型コロナウイルスは、誰もが感染する可能性があります。感染した方を「思いやり」、「守り」、新型コロナウイルスに関わる全ての方、事業者等への差別や非難は、絶対にやめましょう。

岐阜市公式HPより

学校だより

令和2年度 第9号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和2年11月30日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 更なる「成長を実感」した11月（誇らしい子供たち）

校長 藤田 忠久

6月の「学校再開」時に、岐阜市教育委員会から出された「令和2年度の学校行事は中止」を受け、前期の間は「テレビ放送集会」を工夫したり、学年ごとの「校区内への校外学習」を取り入れたりしながらも、教科・領域の授業を進めることが中心となりました。それでも、例年にはない“コロナ禍だからこそのアイデア”も見られ、制約のある中での『成長』を感じてきました。後期になり、学校行事に変わる教育活動が推奨されるようになり、10月には低・中・高の「団体演技発表会」、4年生「研究授業」、6年生「高山研修」等への取組で、多くの成果を上げてきました。

11月は、5年生と3年生の「金華山登山」、3～6年生の「新体力テスト」、4年生、ひまわり、1, 2, 3, 6年生と続いた学級毎の「授業参観」「学級懇談会」がありました。1年生にとって小学校初の「授業参観」でしたが、「3密」を避けた慣れない1階「メディアセンター」での授業でも、あまり緊張する様子もなく落ち着いて学習に取り組んでいました。6年生は、一人一人が「見方・考え方」を働かせ、考えを交流し合う社会科の学習の様子を観てもらいました。



昨年度の全国大会で築き上げた「岐阜小の学び」を、更にバージョンアップさせた最高学年の授業になっていたと思います。参観授業後の「学級懇談会」にも、どの学級も大変多くの保護者の皆さんに残っていただき、お子さんの成長の様子等を交流していただきました。「学校が楽しい」と言って通っている子が多いことが分かり、とても嬉しく思いました。また、2年生「金華地区の町探検」、3年生「亀甲屋見学」、4年生



（「1/2成人式」第1弾）と6年生（「修学旅行」代替の一部）対象の移動シアター「砂漠の劇場」もありました。土曜授業日には、各家庭での「オンライン朝の会」と3年生「親子ふれあい活動」（コーディネーショントレーニング）、4年生「10歳の決意を伝える会」も行いました。4年生の子供たちからは、代表の進行、声の大きさ、話を聞く姿勢、お辞儀や歩く姿など、一人一人の全身から「強い決意」を感じ、素晴らしい会となりました。縦割り異学年での「なかよし遊び」も始まりました。

さらに11月には、高学年の子供たちのボランティア精神に溢れる「献身的な動き」がいくつも見られました。個人用タブレット端末（iPad）収納庫を各教室へ設置する作業では、各「なかよし班」の5, 6年生メンバーが協力して担当の先生の教室へ運び入れ、付属品をセットしたり、包装してあった段ボールやビニール袋等を処理したりしてくれました。岐阜小学校のシンボルツリーである大イチョウで実って落ちた銀杏を拾い集め、洗って乾かす作業をしてくれた5年生の働きも、大変素晴らしかったです。銀杏が落ち始めた頃から昼休みに当番を組んで拾い集め始め、そのうちに早く登校してきた5年生が自主的に拾い集めるようになり、4年生の子も巻き込んで朝のルーティンとなっていくようです。24日には「金華ふれあいクラブ」の皆さんの全面協力のもと、集めた銀杏を洗って乾かすという伝統的な活動を、銀杏独特の匂いや感触を嫌がるこ



となく、楽しそうに行ってくれました。各学級の係活動や日直・給食等の当番活動、清掃活動、児童会の委員会活動、・・・勤労奉仕に繋がる作業的な活動にも、誠心誠意「直向きに」一生懸命取り組むことができることも、岐阜小学校児童の大きな特長と言えます。

様々な学習や活動を通して、大きく成長している子供たちの様子はとても誇らしく、本当に嬉しい11月になりました。

学校だより

令和2年度 第8号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和2年10月30日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## 修学旅行に代わる岐阜小学校の「校外研修」

校長 藤田 忠久

5/27付「教育活動の再開について」の文書で「修学旅行については実施の有無を8月頃に教育委員会が判断することになるため、後日改めて連絡します」とお知らせしたのですが、7月下旬に岐阜市教委から「岐阜市立学校は保護者の意向も考慮して『修学旅行』実施の有無を各校で決め、実施する場合には10月以降に県内での日帰りとする。」という示達がありました。そこで本校は、PTA（会長・6年長）、学校職員（管理職や6年主任等）に旅行業者を交えて検討会を開きました。その結果、当初の目的「従来の歴史学習ではなく『ふるさと学習』の集大成へと繋げる総合的な学習として『観光地の探究活動』『ふるさと自慢』を位置づけ仲間づくりの目的も達成できる行事とする」を踏襲し、「岐阜市（岐阜まち）に旅行者を誘致！」プロジェクトの一環として、バスの確保ができていた10/29（木）に「飛騨高山」、12/3（木）に他の観光地（後に「関ヶ原」に決定）に出かけることを決め、6年生から100%の同意を得ることができました。また、感染予防として「大型バスを3台手配（増車分はコロナ対策費の補助金利用）」「バス内は換気に努めてDVD鑑賞」「班別研修では引率ボランティア（来年度から教壇に立つ岐阜大学・聖徳学園大学の学生）を各班に1人ずつ付けて『3密回避』を見届け」「英語による『岐阜まち自慢』は不特定多数の人との会話を避けて大学生ボランティアにプレゼン」等の対策を講じることとしました。

今年度の6年生は、総合的な学習の時間に「岐阜まちの歴史や伝統を発信して観光客を呼び込もう」をテーマに学習を進め、7月の「麒麟がくる研修」では斎藤道三公や織田信長公の足跡を辿って「岐阜まち」がもつ観光資源の豊かさに気付くことができました。9月からは、そうした観光資源をもつ「岐阜まち」と「古い町並みを中心とした飛騨高山」とを比較し「祭りや景観などの類似点があるにも関わらず、なぜ高山には岐阜の10倍近い観光客が集まるのか？」という課題を設定して学習してきました。子供たちは「観光客を引き付ける食文化があるのでは」「外国人が来たくなる秘密があるのでは」などの仮説を立て、調べ学習を進めてきたのです。班や係で行ってきた事前学習に加え、英語の時間には「岐阜まち自慢」のプレゼンを英語で行う練習も重ねました。10/22（木）には学生ボランティアに集まってもらい、引率の説明やお願いをし、子供たちとの顔合わせも行いました。

こうして迎えた昨日（29日）は天候にも恵まれ、飛騨高山での快適な「校外研修」に行ってくることができました。「個々の歴史的建造物などの観光名所では引けを取らない」と感じたものの、飲食店や土産物屋等の店舗の多さ、本場で食す「飛騨牛」の美味しさ、「古い町並」の規模の大きさ、みだらし団子をはじめとする「食べ歩き」の楽しさ、バリアフリーや外国人観光客の受入体制の充実ぶりなど、五感を使った実際の見聞による「体験」を通して、観光業にかける高山市全体の「凄さ」を実感し、前述の仮説を検証することができ、岐阜市（岐阜まち）への「観光誘致」のための学びを深めて来ることができました。これから6年生は、社会科の歴史学習とも関わらせながら、総合的な学習の時間を充実させていくこととなります。また、帰校後の反省会では、引率ボランティアの学生から「挨拶が素晴らしい」「礼儀正しい」「男女の仲が良い」「研修意識が高い」「知的好奇心が高い」「自分たちで考えて動ける」など、岐阜小学校の6年生の「良さ」をたくさん見つけてくれました。

コロナ禍で“特別な”令和2年度であっても、岐阜小学校の「新たな挑戦」の一步前へと進めていきたいと思えます。

